

令和8年5月8日(金)

令和8年度

第1回 福井県総合教育会議

福井県教育委員会



ふくい
最高!

議題1 「ふくい県立高校魅力向上プラン」
について

議題2 改革先導拠点について

県立高校の現状と課題

I 社会情勢の変化（国の全体）

II 社会情勢の変化（福井県）

III 福井県のこれまでの取組

2040年問題と高校教育改革に関する基本方針

- ・世界規模で、人・モノ・金・情報がグローバルに流通し、産業構造や社会システムの激しい変化や、AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展が止まることのない時代に突入

2040年問題

- ・ 少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化の一層の深刻化
- ・ 労働力需給ギャップ※や、産業界のニーズに応じたいわゆる理系人材の不足が生じる可能性

※事務職は余剰が生じる一方、労働生産性を高めるAI・ロボット等の活用を担う人材などが不足する

- ・ 「自ら問いを立てる力」「他者とともに価値を創り出す力」が評価される時代へ

取組の方向性

- ・ 以下の3つの視点を重視した高校教育改革に関する基本方針（グラウンドデザイン）を策定

<視点1>

不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

<視点2>

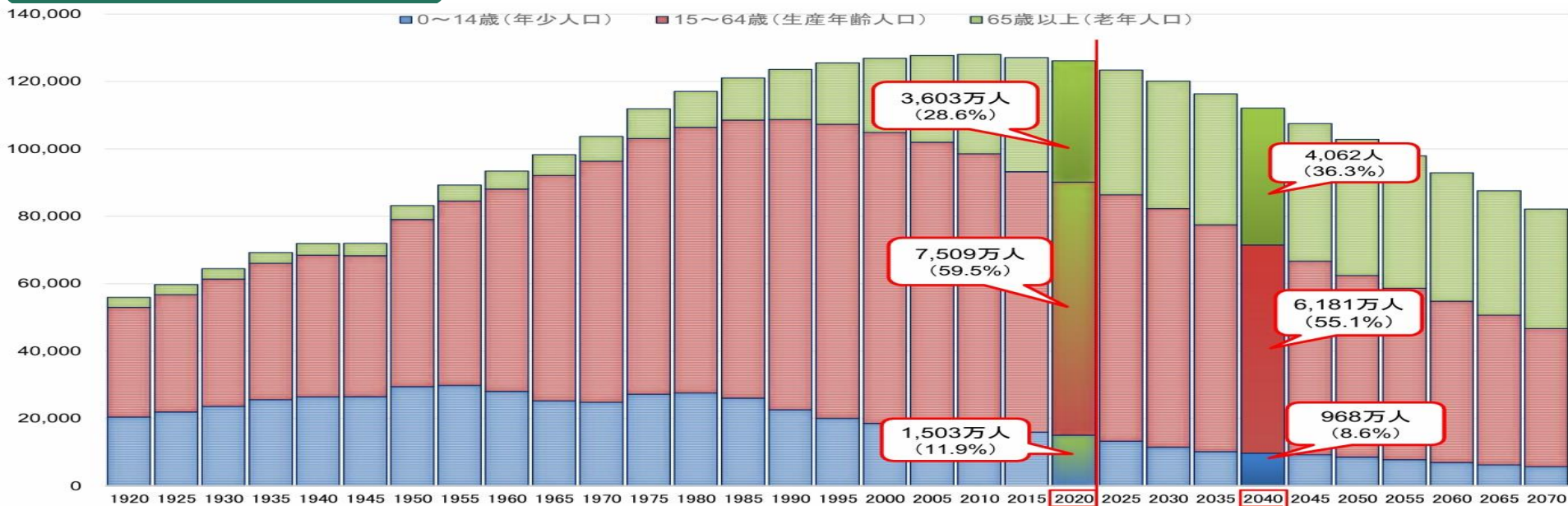
我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

<視点3>

一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

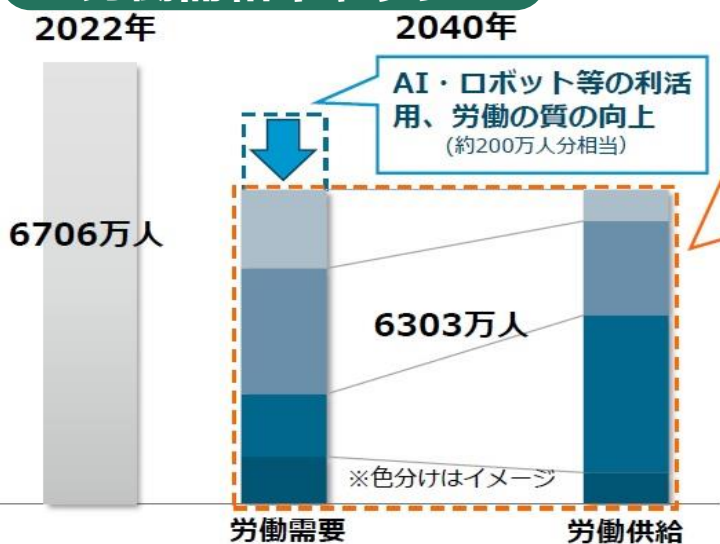
(参考) 日本の人口の推移と労働需給ギャップ

少子高齢化の推移



出典：R7.1.28 文部科学省「高等教育の在り方に関する特別部会(第15回)」配付資料より

労働需給ギャップ



職種・学歴間のミスマッチ

職種別	専門職		事務職	現場人材	
	うち AI・ロボット等の利活用を担う人材	うち 生産工程従事者		うち AI・ロボット等の利活用を担う人材	うち 生産工程従事者
2040年 需給ミスマッチ	-181万人	-339万人	437万人	-260万人	-206万人
2040年需要数/供給数	1867万人/1686万人	782万人/443万人	1039万人/1476万人	3283万人/3023万人	731万人/525万人
2022年就業者数	1288万人	236万人	1455万人	3637万人	835万人
学歴別	高卒 (普通科)	高卒 (工業科)	高専卒	大卒・院卒 理系	大卒・院卒 文系
2040年 需給ミスマッチ	32万人	-91万人	-15万人	-124万人	76万人
2040年需要数/供給数	778万人/810万人	538万人/448万人	77万人/62万人	899万人/775万人	1549万人/1625万人
2022年就業者数	899万人	534万人	64万人	689万人	1678万人

6

出典：R8.3 経済産業省「2040年の就業構造推計(改訂版)について」より

（参考）高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）

高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）

～N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想～

2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」

3つの視点で進める高校改革の方向性

視点1

AIに代替されない
能力や
個性の伸長



学びの在り方の転換
(New Transformation)

★実現に向けて

「好き」を育み、
「得意」を伸ばす
機会の確保

視点2

我が国や地域の
経済・社会の発展を
支える人材育成



最先端を学ぶ高校の
特色化・魅力化
(New Excellence)

★実現に向けて

文理横断的な探究学習の
充実や専門高校の
機能強化・高度化

視点3

一人一人の多様な
学習ニーズに対応した
教育機会・アクセスの
確保



学ぶ機会・アクセスの確保
(New Education)

★実現に向けて

全国どこにいても
多様で質の高い学びの保障、
遠隔授業等の推進

国

高校教育改革に関する
グランドデザイン
策定

都道府県

実行計画を策定

将来

安定財源を確保した上で
交付金等の新たな財政
支援の仕組みを構築

※令和9年度予算の編成過程で検討

I 社会情勢の変化（国の全体）

II 社会情勢の変化（福井県）

III 福井県のこれまでの取組

福井県の現状と課題

福井県の現状と課題

- ・ 福井県の人口は今後も減少していくことが見込まれている

2020年は 76.7万人（年少人口9.6万人）

2040年には63.9万人（年少人口6.4万人）となる見通し

（2020年比で総人口は約17%減、年少人口は約33%減）

- ・ 社会増減（転入－転出）はほぼ一貫してマイナス （転出超過）

2025年は ▲2,721人

20歳～24歳の転出超過数が最も多い

- ・ 高校授業料の実質無償化による影響

令和8年度以降の所得制限撤廃（拡充）による影響を注視する必要あり

⇒人口減少社会において、県立高校が特色ある魅力的な

「選ばれる学校」となるように最大限努力する必要がある

（参考）福井県の人口推移と見通し

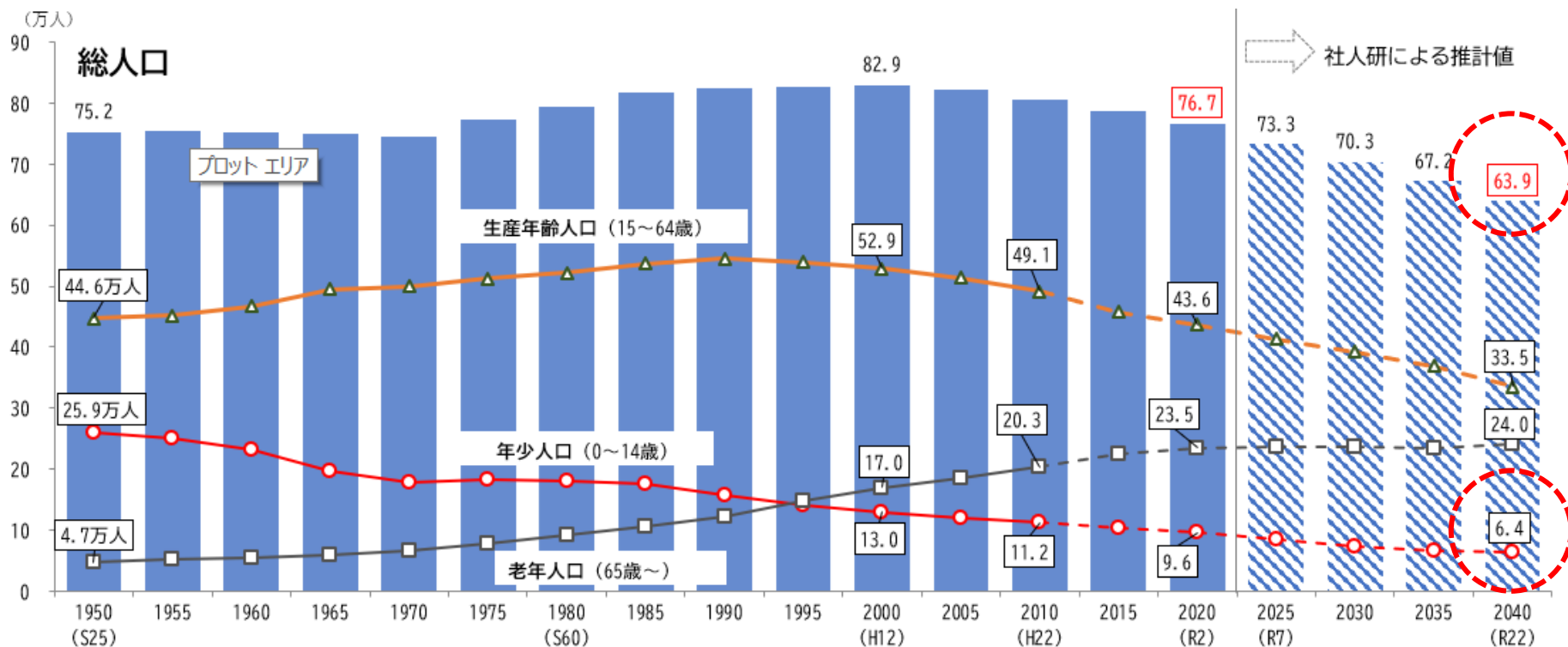
・福井県の人口は、

2040年には**63.9万人まで減少**

高齢人口は増加する一方、生産年齢人口、年少人口は減少する見通し

年少人口は9.6万人（2020年）から6.4万人（2040年）に**約33%減**

福井県の人口推移と見通し

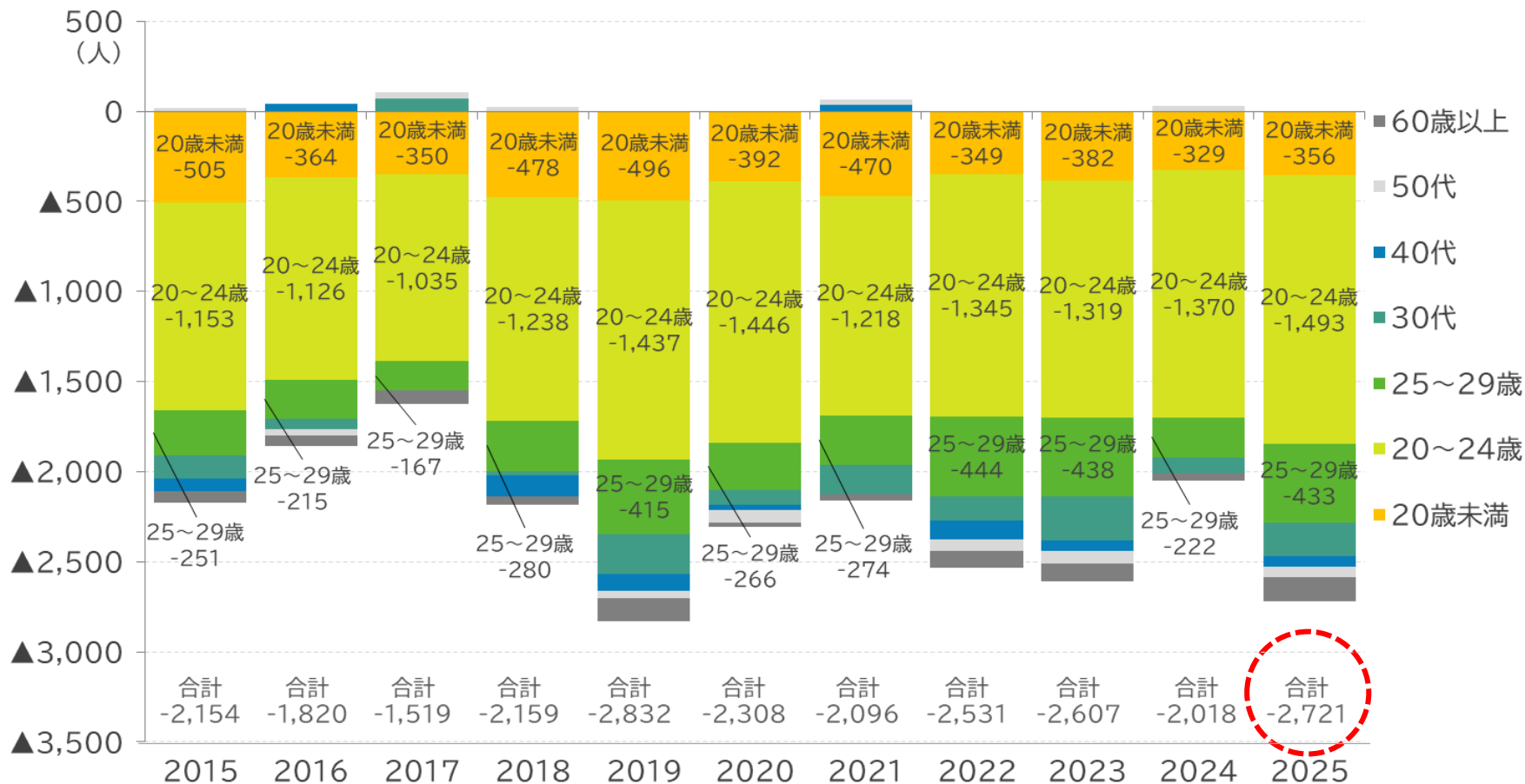


出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口(R5推計)」

（参考）福井県の年齢階級別社会増減の推移

- ・ 福井県の社会増減（転入－転出）は、
 マイナス（**転出超過**）の状態が継続
 20～24歳の転出超過数が最も多い（大学や企業の都市集中）

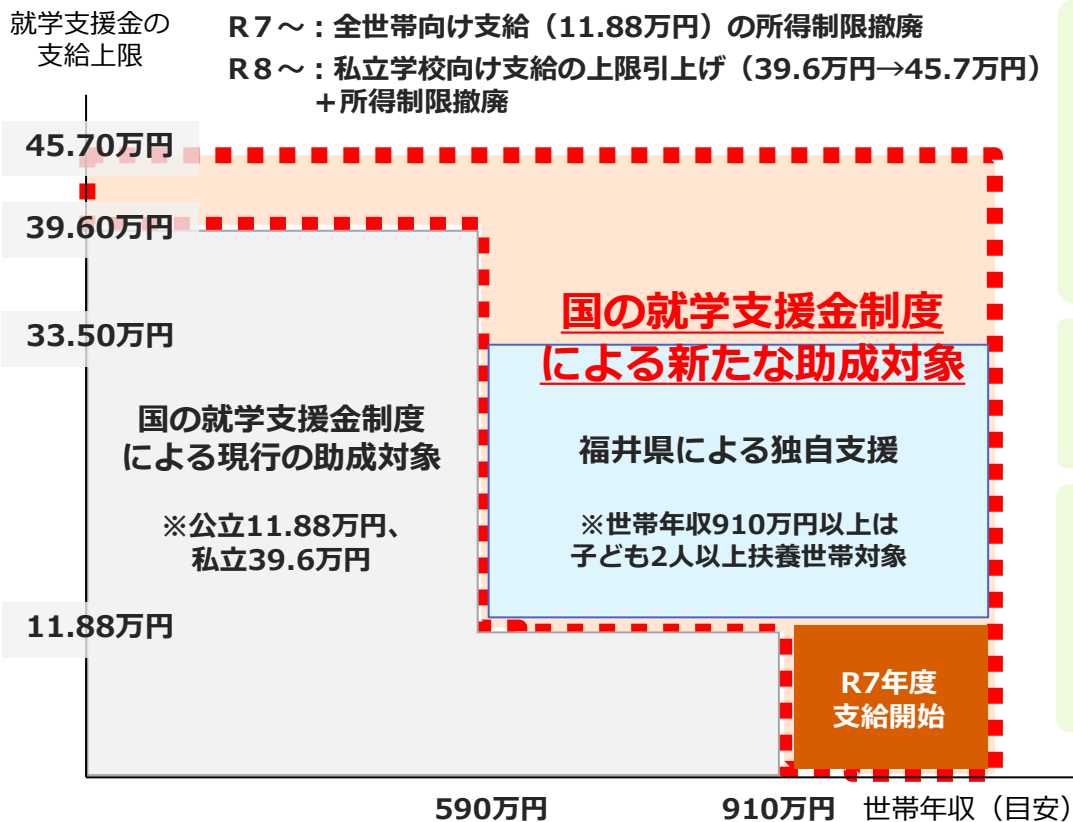
福井県の年齢階級別社会増減の推移



（参考）国による高校授業料の実質無償化

- ・国は、令和8年度から全世帯を対象とした高校授業料の実質無償化を実施
所得制限の撤廃、授業料助成額の引き上げなど**私立高校向けの支援が大幅に拡充**
- ・国は、無償化と併せて**公立高校への支援拡大**を含めた高校教育改革に関する基本方針（N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想）を公表

高校授業料無償化のイメージ



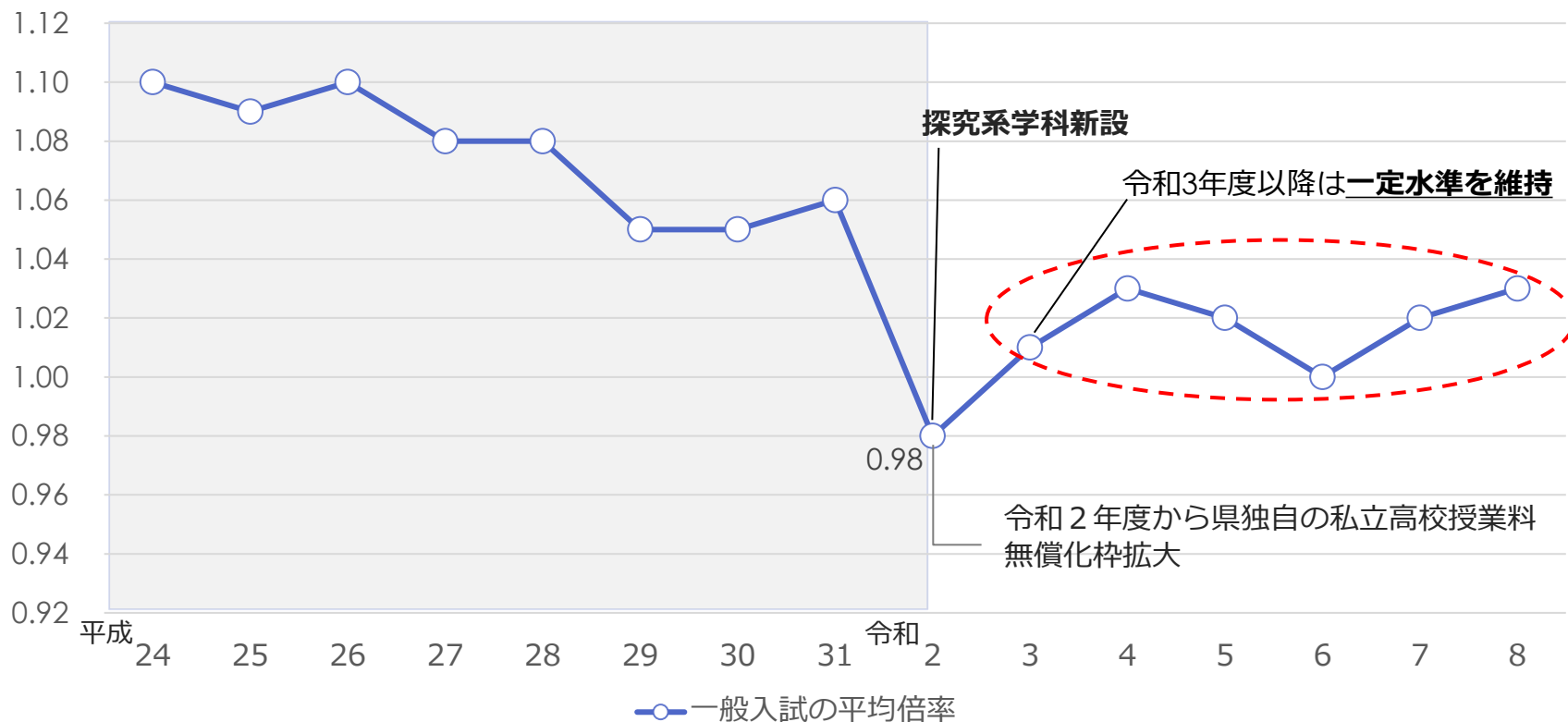
国における高校教育改革の方向性

- ・専門高校の**機能強化,高度化**
- ・普通科高校改革を通じた**特色化,魅力化**
- ・地理的アクセス、**多様な学びの確保**
→**改革先導拠点の創出**
- ・県による**高等学校教育改革実行計画**の策定
- ・上記計画を着実に実現できるよう、**安定財源を確保した上で、財政支援の仕組みを構築**することにより、高校生の学びを支援

（参考）県立高校一般入試倍率の推移

- ・ 県立高校一般入試倍率は、県が私立高校授業料無償化枠を拡大した令和2年度に全県1学区制導入以降**最も低い0.98倍**となった
- ・ 一方で、令和2年度から**探究系学科の新設**等県立高校の魅力向上の取組を実施したことにより、令和3年度以降は**一定水準を維持**している

県立高校一般入試平均倍率の推移



福井県の取組の方向性

福井県の取組の方向性

◎ 「選ばれる学校」づくりのために

- ・ これからの時代に必要となる資質能力の育成に必要な学びの機会の充実
- ・ 学校の枠を超えた県立高校独自の特色的な学びや活動の推進
- ・ 小規模校においても遠隔授業等により他校と協働した多様な学びを確保
- ・ 高度な専門知識や技術を学べ、知的好奇心を引き出す学習環境の構築
- ・ 多様な人が集まる共創の場となる学校施設の整備
- ・ 地域の小中学校との連携を通じた県立高校の魅力発信



県立高校の現状と課題、取組みの方向性等を整理し、県立高校の魅力が向上し生徒や社会から選ばれる学校となるため、関係機関との連携を図りながら令和8年度に「ふくい県立高校魅力向上プラン」を策定する

I 社会情勢の変化（国の全体）

II 社会情勢の変化（福井県）

III 福井県のこれまでの取組

県立高校の再編整備の状況

- ・福井県では、これまでも「福井県高等学校教育問題協議会」（以下、高問協）での議論を踏まえ、県立高校の再編整備を着実に実施

→再編整備の進展により、**福井県内の県立高校の数は24校と全国的にも少ない**

県立高校の再編整備の経過

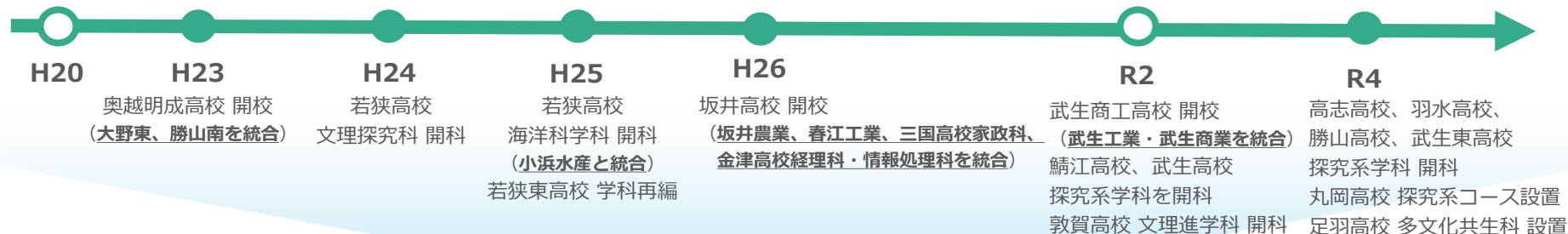
平成20年高問協 答申

- ・総合産業高校の設置
(奥越、若狭、坂井、丹南)
- ・1学年4学級以上の規模を維持

令和2年高問協 答申

・探究系学科の新設

- ・「1学年4学級以上」にこだわらず、**小規模となることが見込まれる高校においても**、地元市町の密接な協力を得ながら各高校の魅力化、特色化をさらに進め、**地域のためにできる限り存続させることが望ましい**



- ・これまでの再編整備により、福井県内の県立高校の数は**全国で2番目に少ない**

都道府県別の全日制県立高校数（令和6年度、少ない順）

鳥取 22校、**福井 24校**、山梨 25校

※参考：石川 38校、富山 34校

探究的な学び

- ・主体的、協働的な学びにより、生徒が主役となる教育を実践
- ・福井県の科学技術の発展に寄与する人材の創出

スーパーサイエンス ハイスクール (SSH)



実施内容

県内では藤島高校、高志高校、武生高校、若狭高校がSSHに指定
外部機関との連携や指定校の自走化を推進するコーディネーターを配置

実施状況

- ・都道府県別SSH指定率は全国トップの12.9% (全国平均4.9%)
- ・各校において先進的な科学人材育成のための取組を実施

高校生探究フォーラム



実施内容

各校で実施されている探究的な学習の成果について、ポスターセッション形式で発表する「高校生探究フォーラム」を開催

実施状況

- ・全ての県立高校の生徒が参加して探究的な学びの成果を発表
- ・講師からの助言や他行生徒との意見交換を通じて自らの活動を深く掘り下げ

全国高校生プレゼン甲子園



実施内容

論理的思考力、表現力、創造力等を養うとともに、プレゼンテーション能力の向上を図るため「全国高校生プレゼン甲子園」を開催

実施状況

- ・令和7年度で5回目の開催となり36都道府県から777チームが参加
- ・参加者アンケートでは、92.5%が参加前と比べプレゼン力が向上したと回答

地域に根差した学び

- ・ 変化の激しい時代において、自分自身が将来どのように生きるかを考えてもらう取組を実施
- ・ 将来の選択肢として、福井で働き暮らすことの魅力や価値を知ってもらうための取組を実施

地域デザイン講座



実施内容

地域や福井の未来と自身の将来を結び付けて考えることで、地域への愛着を高め、地元定着につなげることを目的に「地域デザイン講座」を開催

実施状況

- ・ 県教育長が講師となり、令和6、7年度の2年間で延べ28回実施
- ・ 受講後「福井の将来に希望がもてた」と回答した生徒の割合が約83%

高校生チャレンジアワード



実施内容

一人ひとりが地域の未来を主体的に考え行動する力を育むため、福井の魅力向上や地域の課題解決に向けた挑戦を評価する「高校生チャレンジアワード」を開催

実施状況

- ・ 県内17校の107チーム322名から応募
- ・ 「福井をもっとおもしろく！」のテーマのもと地域に飛び出す高校生を応援

ふくいの産業



実施内容

地域産業の現状や行政および先端企業の取組を学ぶため、経営者や技術者および行政担当者等を講師に招いたオンライン講座「ふくいの産業」を実施

実施状況

- ・ 令和7年度は県内12の企業、団体の講師を招いて講座を実施
- ・ プロ人材高校11校、約1600人の生徒が受講

学校の枠を超えた学び

- ・ 同じ分野に興味関心のある生徒同士が集まり、交流し学びあう多彩なプログラムを実施
- ・ 他校の生徒と切磋琢磨し、先進的な学習ができる環境を構築

クリエイティブ教育



実施内容

企画・デザインに興味のある高校生が県内のクリエイターと共に創造的思考（クリエイティブ・シンキング）のプロセスを体験するワークショップを開催

実施状況

- ・ 8月、3月にワークショップを開催し各回約**20人**の高校生が参加
- ・ 暮らしの中での課題や疑問に対して意見交換

ふくいグローバルサークル (FGC)



実施内容

「世界に羽ばたく人材」や「世界から福井に呼び込む」人材育成のため、学校の垣根を超えた高校生英語サークル「ふくいグローバルサークル (FGC)」を創設

実施状況

- ・ 県内各地の高校から**130名以上**が登録
- ・ 外国人学生と共に「英語サマーキャンプ」を実施、県内グローバル企業社員との交流会を実施するなど活動

理系人材育成



実施内容

理工学分野への進学率が低い福井県（特に理系女子）の現状を踏まえ、福井の未来を創る科学技術人材育成のためのプロジェクトを実施

実施状況

- ・ 「ふくいGirls未来のテックリーダー」プロジェクトに**高校生53人**が参加
- ・ 生徒の夢実現応援プロジェクト（生徒研究支援）に**6チーム**が参加

プロ人材高校の価値向上

- ・ 地域産業の協力を得て、より実践的な地域と結びついた学びを伸ばし、プロ人材高校の価値や魅力向上を図る取組を実施

ふくい産業教育フェア



実施内容

プロ人材高校の職業系学科の生徒が学んだ内容や研究の成果を発表する「ふくい産業教育フェア」を福井と敦賀の2か所で開催

実施状況

- ・ 県内 **11校の生徒282名**が参加
- ・ 制作した作品展示や、体験コーナー等のワークショップを通じて、プロ人材高校の魅力を **中学生・保護者等の県民にPR**

高校と地元企業等との連携



実施内容

より良い未来 (Well-Being)の実現と、それを担う人材育成のために高校と地元企業・自治体等が協働するプラットフォームを設置（坂井,若狭,武生商工）

実施状況

- ・ 産業界等との連携体制を活用した教育活動を全ての職業系高校において実施
- ・ 坂井高校では令和8年1月に**総勢125名**が参加する超会議を開催

小中学校との連携



実施内容

出前授業や地域のイベントを通して、小中学生とその保護者をはじめ広く県民に **プロ人材高校の特色ある取組などの魅力を発信**

実施状況

- ・ それぞれのプロ人材高校において、多様な企業等と連携し実施した活動を活かし、**地域の小中学生を巻き込んだ共同的な学習**を実施

多様なニーズに応じた学び

- ・ 定時制、通信制の多様なニーズに応じた学びの機会の確保と就労に繋ぐ取組を実施
- ・ 地域産業との連携を深め、地域を支える人材を育成するための取組を実施

キャリア教育



実施内容

社会経験が少なさ等により卒業後の進路決定に困難や不安を抱える生徒に対し、**職業観や勤労観を身に付ける**ための活動を実施

実施状況

- ・ 各校において**地元企業見学や職業体験、地域貢献活動等の体験的な学び**を重視したキャリア教育を実施

合同企業説明会



実施内容

生徒が職業に関して自己理解を深め、卒業後の進路について考える契機とするため、**合同企業説明会を開催**

実施状況

- ・ 県内5校の**生徒、保護者約70人、県内15社、1団体が参加**
- ・ 就職希望の生徒が少人数で気軽に企業に質問できる機会を提供

連合文化祭



実施内容

生徒の自己表現活動や文化芸術活動の発展、文書処理技術の定着を図るとともに、生徒の交流活動の推進を目的とした**連合文化祭を開催**

実施状況

- ・ 各校の生徒が書道や美術、写真、被服等の**文化芸術活動の展示発表を実施**
- ・ 高校生活で得た**学びのスピーチ**や、**ワープロ技術競技会**も開催

特別支援教育の充実

- ・ 特別な支援を必要とする児童生徒の通学や卒業後の自立と社会参加に向けた取組を実施

キャリア教育



実施内容

生徒の障がい特性に応じた求人開拓や実習の同行支援を行う **ジョブコーチを配置** **ワークキャリア推進協議会を開催**し、地域と連携したキャリア教育について協議

実施状況

- ・ 農業法人等や外部の専門家による農業、清掃、喫茶サービス等の体験実習や技術指導の機会を設け、**生徒の就労意欲やスキル向上、就職の選択肢拡大に繋げた**

インクルーシブ教育



実施内容

障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒がともに学ぶ交流及び共同学習を推進するための「**インクルーシブ教育推進事業**」を実施

実施状況

- ・ 令和6年度より清水特別支援学校と朝日小学校、清水中学校をモデル校として、**共同学習推進のための体制構築を研究**

通学支援



実施内容

通学途中に医療的ケアが必要な幼児児童生徒に**訪問看護等事業所やタクシー会社等の協力を得て通学支援を実施**

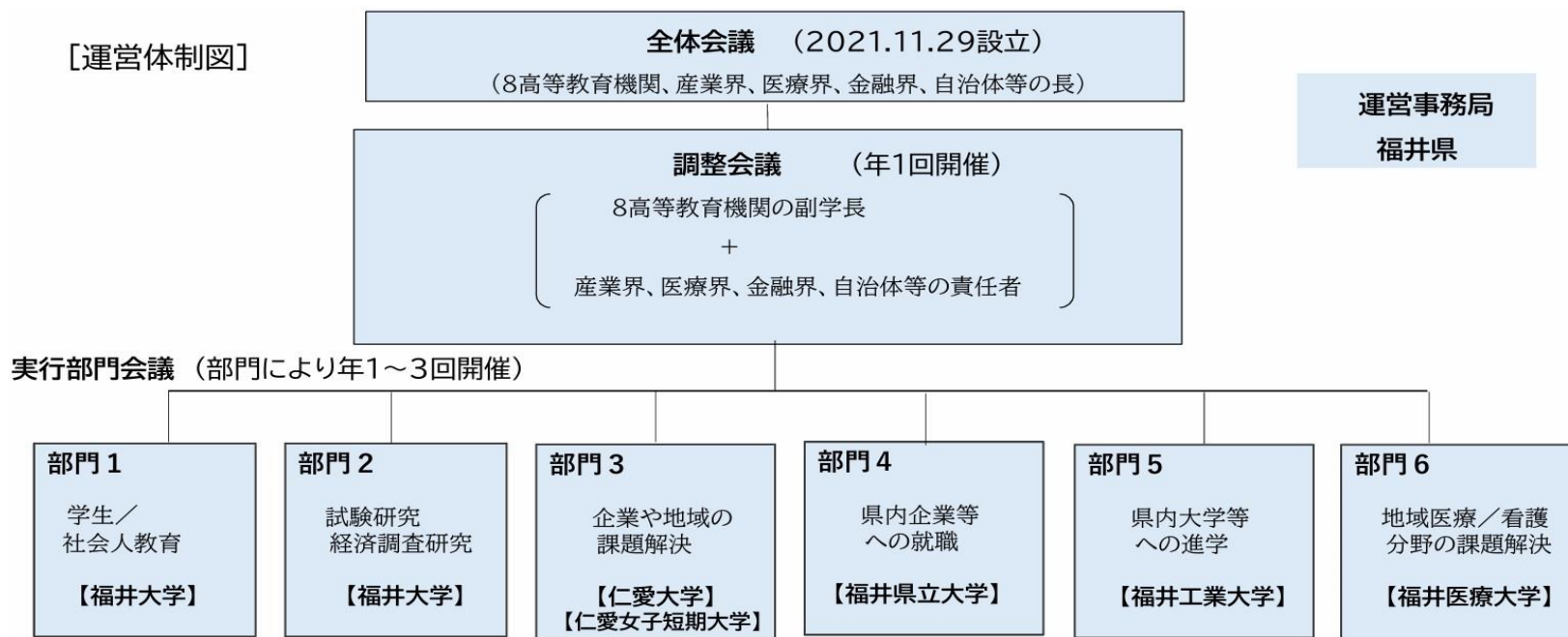
実施状況

- ・ 令和7年度は28名の希望者に計177回実施

未来協働プラットフォームふくい

- ・ 大学、産業界、自治体等が恒常的に対話し、連携して地域の発展に貢献するための体制を構築
- ・ 本県の将来を担う人材を育成・輩出するため、今後、地域の人材需給や産業構造のニーズを踏まえ、産官学金等がさらに主体的・継続的に議論を行う場として組織を強化し、県内企業等への就職や県内大学等への進学を取組を充実
- ・ 県立高校の魅力向上に向けて、ふくい県立高校魅力向上プラン策定等、県教育委員会との連携を強化

[運営体制図]



※【 】は責任大学

進路探究ワークショップ (Feel Fukui's Fun)

- ・ 県内高校生を対象に、県内大学の学びとそれが県内企業でどのように生かされているかが体験できるワークショップを県内企業と連携して実施

福井県教育振興計画（第4期 令和7～11年度）（抜粋）

基本理念

一人ひとりの個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり
～ 子どもが主役の「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育の推進 ～

こどものためにアクション！

引き出す教育

楽しむ教育

ふるさと教育

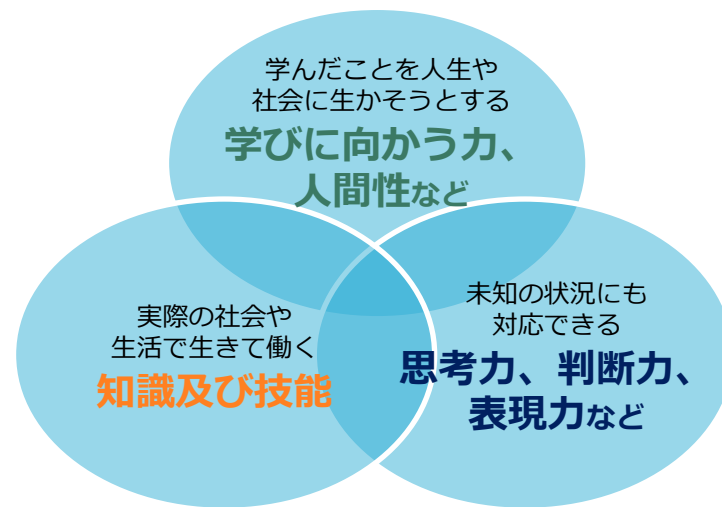
目指す人間像

- 1 個性を発揮し、自らが思い描く人生を切り拓くために挑戦し続ける人
- 2 多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人
- 3 ふるさとや自然を愛し、いづどこにいても社会や地域に貢献する人

福井県教育振興計画（第4期 令和7～11年度）（抜粋）

伸ばすべき力

学習指導要領の「学びの三要素」
をバランス良く育みながら
以下の資質・能力を重点的に育成



- 1 思考と行動の基礎となる**学力・体力**
- 2 好奇心をもって学びを深める**探究力**
- 3 他者と協働する**共感力・対話力**
- 4 ふるさとの未来と自らの将来を思い描く**キャリア形成力**
- 5 成長を続けるための**挑戦力**

福井県教育振興計画（第4期 令和7～11年度）（抜粋）

基本的な方針

方針1 自らと福井の将来につなげる学びの推進

- ・課題の発見・解決や他者との協働など、未来を切り拓いていくための資質・能力を育む
- ・地域の未来と自らの将来を考える機会を増やし、一人ひとりの将来の夢や希望を育む

方針2 誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進

- ・全ての子どもが安心して学ぶことのできる居場所をつくる
- ・特別支援教育の充実など、子どもの多様性に応じた学びと環境をつくる

方針3 人生を楽しく豊かにする学びの推進

- ・生涯学び続けることの楽しさを伝え、さまざまな学びの機会を提供する
- ・子どもたちが文化芸術・スポーツに親しむ機会を充実する

方針4 基本となる環境づくり

- ・働きがいと働きやすさを両立する職場環境をつくり、教職の魅力を広く発信する
- ・子どもたちの多様なキャリア形成を促す、特色のある魅力的な学校をつくる

第1回ふくい県立高校魅力向上プラン策定委員会（4月28日） において議論

県立高校独自の魅力的な学びを推進し、県立高校が選ばれる学校となるためのプラン策定に向けて、次のキーワードに基づいて委員の皆様からご意見をいただいた

キーワード（参考）

県立高校独自の特色ある学び

- ・好き（興味・関心）を育み、「得意」を伸ばし、多様な経験を積むことができる機会の確保
- ・AIに代替されない力の育成
- ・探究的、文理横断的な学び、STEAM教育、キャリア教育等の推進
- ・学校や課程、学科の枠を超えた学びの推進

人口減少時代における高校教育の在り方

- ・人生100年時代を見据えた「ライフデザイン教育」の推進
- ・普通科の在り方の転換、普通科改革を通じた特色化、魅力化
- ・小規模校の特色化、魅力化のための教育条件の改善、遠隔授業の推進
- ・社会や産業界のニーズに応じた人材、グローバルに活躍する人材の育成
- ・地域産業や大学等との連携、協働

一人一人の学習ニーズに対応した教育機会の確保

- ・不登校経験など多様な背景を持つ生徒に対する学習機会の提供
- ・生徒と教員のウェルビーイングの実現
- ・教師の資質、能力の向上を図ることができる環境整備

プラン策定委員会における委員意見

第1回ふくい県立高校魅力向上プラン策定委員会における 委員意見①

教育界からの意見

- ・ 現場の教員、生徒が当事者意識を持って学校づくりに参画することが県立高校改革の成功につながる。
- ・ 選ばれる県立高校となるためには、高校の魅力を伝えるだけでは不十分。中学校の生徒や教員を巻き込んでいくような仕掛けが必要。
- ・ 中高大の連続性が見える形で連携できるとわかりやすい。
大学等との連携により、先生の好奇心や探究心が満たせるような環境づくりをすることで、生徒にも効果が波及していくのではないか。
- ・ 探究学習と教科学習の連携の視点を持ち、探究学習だけでなく、教育総合研究所等の機能強化により、教科学習の指導力向上を支えるような仕組み作りが必要。
- ・ 生徒が主体的に未来を創造していくために、挑戦できる教育、失敗ができる環境が必要。何に価値を感じて生きていくか問う「ライフデザイン教育」の推進が示されている点は評価できる。

第1回ふくい県立高校魅力向上プラン策定委員会における 委員意見②

保護者からの意見

- ・ 高校生は県が様々な手厚い取組をしていることを知らない。高校生と政策ワークショップのような取組ができると、福井の良さや地元理解の促進につながるのではないかと。
- ・ 教員や保護者も自分の好きを伸ばしていくことで、生徒も自分の好きを伸ばしていくことができる。教員や保護者が「福井が好きだ」という姿勢を示すことで、今後子どもたちが県外に出たとしても、将来福井のために力になってくれるのではないかと。
- ・ 教員の役割が多く、生徒と向き合う時間が持てない教員が多い。今後色々な取組を進めていくのだと思うが、現場の教員が生き生きと働くことができるよう、現場視点で取組を進めていただきたい。
- ・ お金を稼ぐための手段というだけでなく、仕事をすることによる喜びや、好きなことを実現するなどといった「キャリア教育」について考える機会が必要。

第1回ふくい県立高校魅力向上プラン策定委員会における 委員意見③

産業界からの意見、改革先導拠点に関する意見

- ・ 企業として採用したい人材は、素直さや人を大切にできるなど人間力があることが大事。そのような視点もプランに盛り込んでいきたい。
- ・ 人材が福井に留まるだけでなく、全国、世界に羽ばたき、いつかは福井に戻ってきてくれるような、広い視野に立った人材育成を考えてほしい。
- ・ 「学校の枠を超えた学び」や、外部機関との連携により生徒をバックアップしていく体制は県立高校の魅力で素晴らしい取組であり、その魅力を際立たせていくことが必要。
- ・ 「ふくい県立高校魅力向上プラン」は今後全ての高校が取り組んでいくもの。改革先導拠点の教員のみが孤軍奮闘するようなものにならないように、改革先導拠点に専門的な人材が支援に入ることができる仕組みを構築することが大事。
- ・ 「選ばれる学校」という言葉の解像度を上げ、それぞれの学校がどのような学びの価値を提供できるのか考えなければならない。

議題1 「ふくい県立高校魅力向上プラン」
について

議題2 改革先導拠点について

N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想に係る改革先導拠点

学校名(全日制)	人数(学級数) ※R7 一年生	学 科	備 考
若狭東高校	141人(6クラス)	生活創造科、地域創造科、工業創造科、ビジネス情報科	DX 令和7年度～令和8年度(予定)
福井農林高校	135人(4クラス)	生物生産科、環境工学科、生活科学科、食品流通科	
科学技術高校	180人(5クラス)	機械システム科、化学創造科、産業デザイン科、電子電気科、情報工学科	DX 令和6年度～令和8年度(予定)
敦賀工業高校	115人(4クラス)	電子機械科、電気科、情報ケミカル科、建築システム科	
福井商業高校	296人(8クラス)	商業科、国際経済科、会計科、情報処理科、流通経済科	
坂井高校	232人(8クラス)	食農科学科、機械・自動車科、電気・情報システム科、ビジネス・生活デザイン科	MH(指定) 令和3年度～令和5年度 〃(拠点) 令和6年度～令和7年度
奥越明成高校	75人(5クラス)	機械科、電気科、ビジネス情報科、生活福祉科	
武生商工高校	248人(7クラス)	機械創造科、電気情報科、都市・建築科、商業マネジメント科、情報ビジネス科	MH(拠点) 令和6年度～令和7年度 DX 令和6年度～令和8年度(予定)
藤島高校	313人(9クラス)	普通科	SSH 平成16年度～令和8年度(現在先導1期)
高志高校	241人(7クラス)	探究創造科(2・3年次 人文創造科、理数創造科)	SSH 平成15年度～令和10年度(現在先導1期) 併設型中高一貫校 平成26年度～
武生高校	298人(8クラス)	普通科、探究進学科(2・3年次 探究文科、探究理科)	SSH 平成20年度～令和10年度(現在4期)
武生東高校	91人(3クラス)	学際フロンティア学科(2・3年次 フューチャークエスト科、フューチャーサイエンス科、グローバル科)	DX 令和6年度～令和8年度(予定)
敦賀高校	215人(7クラス)	普通科、文理進学科(2・3年次 理数進学科、人文進学科)、商業科、情報経理科	DX 令和6年度～令和8年度(予定)
若狭高校	264人(8クラス)	普通科、文理探究科(2・3年次 国際探究科、理数探究科)、海洋科学科	MH(指定) 令和3年度～令和5年度 SSH 平成23年度～令和10年度(現在3期)
羽水高校	299人(8クラス)	普通科、探究特進科	
足羽高校	137人(5クラス)	普通科(キャリアデザインコース)、多文化共生科(中国語・英語コース、日本語コース)	
三国高校	125人(4クラス)	普通科	
金津高校	229人(7クラス)	普通科	DX 令和6年度～令和8年度(予定) 連携型中高一貫校 平成17年度～
丸岡高校	96人(3クラス)	普通科(みらい共創コース、スポーツ探究コース)	DX 令和6年度～令和8年度(予定)
大野高校	114人(4クラス)	普通科	DX 令和6年度～令和8年度(予定)
勝山高校	88人(4クラス)	普通科、探究特進科	DX 令和6年度～令和8年度(予定) 連携型中高一貫校 令和8年度～
鯖江高校	258人(7クラス)	普通科(スタンダードコース、スポーツ・健康福祉コース、IT・デザインコース)、探究科	DX 令和6年度～令和8年度(予定)
丹生高校	107人(4クラス)	普通科	連携型中高一貫校 平成17年度～
美方高校	149人(5クラス)	普通科、生活情報科、食物科	連携型中高一貫校 平成17年度～

= 改革先導拠点 (案) =

① 専門高校の機能強化・高度化 坂井高校

【選定理由】

- ・プロ人材高校の中で、農工商4学科を有し、多様な学科連携が可能
- ・地域人材育成に向け、令和3年度からのマイスターハイスクールの取組みを進め、産学官連携のコンソーシアムの枠組みが構築されている

② 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化 敦賀高校

【選定理由】

- ・SSH校以外で理数科を有し、他地域の普通科系高校への波及効果が高い
- ・地域と連携した専用の理数研究、探究展開が可能(電子部品・エネルギーなど)

③ 地理的アクセス・多様な学びの確保 鯖江高校

【選定理由】

- ・県内で唯一、普通科にIT・デザインコースがあり、遠隔授業を検討している教科「情報」の教員体制が確保
- ・令和元年度から「地域との協働による教育改革推進事業」の取組みを県内で先行的に進め、地域連携の仕組みが構築されている。

SSH:スーパーサイエンスハイスクール、MH:マイスターハイスクール、DX:DXハイスクール(単年度申請)

※県全体の地域バランスも考慮し決定

改革先導拠点について(案)

<p>類型1</p> <p>専門高校の機能強化・高度化 (アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等)</p>	<p>拠点校:坂井高校</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>取組内容</p> <p>○高度専門実践プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度資格取得ブートキャンプ ・六次産業化を見据えた社会実装教育 等 <p>○地域共創プロジェクト型学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携プロジェクト ・坂井高校マルシェの高度化 ・専門教育の魅力発信(次世代育成) 等 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>整備内容(4つの拠点を整備)</p> <p>①アドバンスト・テクノ HUB (工業拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各コース(機械、自動車等)における設備導入 等 <p>②スマートアグリ&バイオ HUB (農業拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業設備の導入 等 <p>③六次産業化 HUB (商業拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品の生産、加工、出荷等の工程における衛生管理手法(HACCP)を学ぶ設備の導入 等 <p>④地域共創 HUB (全分野・地域交流拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における連携・共創や実践的なビジネス体験等が可能な環境整備 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>協力校(※) (全日)</p> <p>若狭東、福井農林科学技術、敦賀工業福井商業、奥越明成武生商工 敦賀、美方、若狭(定時・通信) 丸岡、大野、鯖江武生、敦賀、若狭道守</p> </td> </tr> </table>			<p>取組内容</p> <p>○高度専門実践プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度資格取得ブートキャンプ ・六次産業化を見据えた社会実装教育 等 <p>○地域共創プロジェクト型学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携プロジェクト ・坂井高校マルシェの高度化 ・専門教育の魅力発信(次世代育成) 等 	<p>整備内容(4つの拠点を整備)</p> <p>①アドバンスト・テクノ HUB (工業拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各コース(機械、自動車等)における設備導入 等 <p>②スマートアグリ&バイオ HUB (農業拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業設備の導入 等 <p>③六次産業化 HUB (商業拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品の生産、加工、出荷等の工程における衛生管理手法(HACCP)を学ぶ設備の導入 等 <p>④地域共創 HUB (全分野・地域交流拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における連携・共創や実践的なビジネス体験等が可能な環境整備 	<p>協力校(※) (全日)</p> <p>若狭東、福井農林科学技術、敦賀工業福井商業、奥越明成武生商工 敦賀、美方、若狭(定時・通信) 丸岡、大野、鯖江武生、敦賀、若狭道守</p>
<p>取組内容</p> <p>○高度専門実践プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度資格取得ブートキャンプ ・六次産業化を見据えた社会実装教育 等 <p>○地域共創プロジェクト型学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携プロジェクト ・坂井高校マルシェの高度化 ・専門教育の魅力発信(次世代育成) 等 	<p>整備内容(4つの拠点を整備)</p> <p>①アドバンスト・テクノ HUB (工業拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各コース(機械、自動車等)における設備導入 等 <p>②スマートアグリ&バイオ HUB (農業拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業設備の導入 等 <p>③六次産業化 HUB (商業拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品の生産、加工、出荷等の工程における衛生管理手法(HACCP)を学ぶ設備の導入 等 <p>④地域共創 HUB (全分野・地域交流拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における連携・共創や実践的なビジネス体験等が可能な環境整備 	<p>協力校(※) (全日)</p> <p>若狭東、福井農林科学技術、敦賀工業福井商業、奥越明成武生商工 敦賀、美方、若狭(定時・通信) 丸岡、大野、鯖江武生、敦賀、若狭道守</p>				
<p>類型2</p> <p>普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化 (文理の双方の素養を有する人材の育成等)</p>	<p>拠点校:敦賀高校</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>取組内容</p> <p>○先導的な理数教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数探究基礎の充実 ・科学的根拠を追求できる先進的授業の開発(DX活用) ・新たな学校設定科目(データサイエンス)の新設 等 <p>○地域・国際の連携を活かした教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元大学や企業との連携 ・国内外の高校生や研究者等とのオンライン協働研究 等 <p>○理系人材の裾野拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を含む全世代が科学に親しめる機会の創出 ・女子高生の科学分野への参画促進 等 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>整備内容(2つの拠点を整備)</p> <p>①科学・DX研究センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量的データを採取・分析するための機器の導入 ・先端デジタル機器(データ活用関係)の導入 等 <p>②先進的な理科実験室(高度化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学4分野における実験室の充実 ・「講義」と「実験」が両方実施可能な環境整備 ・授業や研究で遠隔交流が可能な通信機器の導入 等 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>協力校 (全日)</p> <p>藤島、高志、武生、武生東、若狭羽水、足羽、三国金津、丸岡、大野勝山、鯖江、丹生美方、敦賀工業(定時) 敦賀</p> </td> </tr> </table>			<p>取組内容</p> <p>○先導的な理数教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数探究基礎の充実 ・科学的根拠を追求できる先進的授業の開発(DX活用) ・新たな学校設定科目(データサイエンス)の新設 等 <p>○地域・国際の連携を活かした教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元大学や企業との連携 ・国内外の高校生や研究者等とのオンライン協働研究 等 <p>○理系人材の裾野拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を含む全世代が科学に親しめる機会の創出 ・女子高生の科学分野への参画促進 等 	<p>整備内容(2つの拠点を整備)</p> <p>①科学・DX研究センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量的データを採取・分析するための機器の導入 ・先端デジタル機器(データ活用関係)の導入 等 <p>②先進的な理科実験室(高度化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学4分野における実験室の充実 ・「講義」と「実験」が両方実施可能な環境整備 ・授業や研究で遠隔交流が可能な通信機器の導入 等 	<p>協力校 (全日)</p> <p>藤島、高志、武生、武生東、若狭羽水、足羽、三国金津、丸岡、大野勝山、鯖江、丹生美方、敦賀工業(定時) 敦賀</p>
<p>取組内容</p> <p>○先導的な理数教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数探究基礎の充実 ・科学的根拠を追求できる先進的授業の開発(DX活用) ・新たな学校設定科目(データサイエンス)の新設 等 <p>○地域・国際の連携を活かした教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元大学や企業との連携 ・国内外の高校生や研究者等とのオンライン協働研究 等 <p>○理系人材の裾野拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を含む全世代が科学に親しめる機会の創出 ・女子高生の科学分野への参画促進 等 	<p>整備内容(2つの拠点を整備)</p> <p>①科学・DX研究センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量的データを採取・分析するための機器の導入 ・先端デジタル機器(データ活用関係)の導入 等 <p>②先進的な理科実験室(高度化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学4分野における実験室の充実 ・「講義」と「実験」が両方実施可能な環境整備 ・授業や研究で遠隔交流が可能な通信機器の導入 等 	<p>協力校 (全日)</p> <p>藤島、高志、武生、武生東、若狭羽水、足羽、三国金津、丸岡、大野勝山、鯖江、丹生美方、敦賀工業(定時) 敦賀</p>				

類型3 地理的アクセス・ 多様な学びの確保	拠点校:鯖江高校		
	取組内容 ○遠隔教育の確立・展開 ・「情報※」の授業配信を通して遠隔授業の効果的な授業・運営方法を確立 ※その他分野にも順次拡充 ・オンラインによる他校等との合同授業や交流 等 ○地域資源（デジタル、ものづくり、デザイン）を活かした教育の実施 ・地域課題解決に向けたプロジェクト型学習の展開 ・高校生版デザイン講座の開設 ・新たな学校設定科目の開発 等 ○地域と連携した学力向上・学習支援の実施 ・地元進学に向けた学習講座や相談会の実施 ・地元企業との協働した情報活用能力の向上 等	整備内容（2つの拠点を整備） ①遠隔教育拠点（配信センター等） ・配信スタジオ、多目的遠隔実習室等の整備 ・先端デジタル機器（デジタルものづくり関係）の導入 等 ②地域連携共創拠点 ・地域における連携・共創が可能な環境整備 ・地元進学学習講座等を実施する多目的な環境整備 等	協力校 （全日） 羽水、足羽、三国 金津、丸岡、大野 勝山、丹生、美方 武生東、福井農林 奥越明成 （通信） 道守

(※)協力校・・・改革先導拠点が改革を実現するために必要不可欠な他の学校等を「協力校」として設定可能

類型ごとに関連する高校を協力校に位置づけ、県内全ての高校において、改革先導拠点の取組みの波及に努める